

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症評価部会]

1 疾患別定点週報情報の月計

平成11年9月分(8月30日~10月3日)

疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	2	0	-		12	麻疹	1	0	0.22	
2	咽頭結膜熱	39	0.12	0.18	↘	13	流行性耳下腺炎	241	0.73	0.64	⇒
3	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	96	0.29	-	↗	14	急性出血性結膜炎	3	0.04	0.04	
4	感染性胃腸炎	601	1.82	1.34	⇒	15	流行性角結膜炎	78	0.92	1.61	↘
5	水痘	141	0.43	0.54	↘	16	急性脳炎	4	0.04	0	
6	手足口病	181	0.55	0.58	↑	17	細菌性髄膜炎	3	0.03	1.37	
7	伝染性紅斑	21	0.06	0.09	↘	18	無菌性髄膜炎	13	0.14	0.02	
8	突発性発疹	284	0.86	0.79	⇒	19	マイコプラズマ肺炎	5	0.05	-	
9	百日咳	6	0.02	0.05		20	クラミジア肺炎	0	0	-	
10	風疹	14	0.04	0.06		21	成人麻疹	0	0	-	
11	ヘルパンギーナ	446	1.35	0.15	↘	「過去5年平均」: 過去5年間の同時期平均(定点当り)					

2 疾患別定点月報情報

平成11年9月分

疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No.	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	57	2.48	1.28		26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	39	2.05	-	↘
23	性器ヘルペスウイルス	9	0.39	0.54		27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	0.21	-	
24	尖圭コンジローム	6	0.26	0.20		28	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	-	
25	淋菌感染症	31	1.35	0.80		「過去5年平均」: 過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	↗	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較して おおむね1:2以上の増減	前月と比較して おおむね1:1.5~2の増減	前月と比較して おおむね1:1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む。)

3 県内で発生した主な感染症に関するコメント

「腸チフス・パラチフス」

9月にはパラチフス(無症状病原体保有者)の届出が1件ありました。これまで全国で28件(第39週まで)発生しています。

腸チフス・パラチフスは一般のサルモネラ感染症とは区別され、チフス性疾患と総称され、それぞれチフス菌・パラチフスA菌の感染による菌血症と腸管の局所の病変を特徴とする疾患です。

腸チフスについては、広島県では1月に1件(無症状病原体保有者)発生しており、全国ではそれぞれ60件(第39週まで)発生しています。

腸チフスとパラチフスは臨床症状はほとんど同じですが、パラチフスは腸チフスと比較して一般的に症状は軽いと言われています。通常10~14日の潜伏期間の後に、39~40の発熱、徐脈、パラ疹、脾腫などが出現します。

わが国では環境衛生状態の改善により、「国内由来の発生例は減少しましたが、現在でも、日本を除くアジア、中南米、アフリカなどに蔓延し、流行を繰り返しており、海外からの輸入事例はむしろ増加傾向にあります。また、海外由来の多剤耐性チフス菌が増加しており、注意が必要です。

チフス菌・パラチフスA菌は宿主特異性があり、ヒトにのみ感染し、ヒトの糞便で汚染された食物や水が媒介体となります。

なお、詳細については「国立感染症研究所感染症情報センター」のホームページに記載されている、第38週週報を参照してください。

全国情報については、「国立感染症研究所感染症情報センター」のホームページを参照してください。
ホームページアドレス <http://idsc.nih.go.jp>

分離されたウイルス株の状況

検体総数	陰性数	陽性数
40	34	6

分離ウイルス名	件数	検体採取年月	性別	年代	発生地区	診断名内訳
コクサッキーウイルスA16型	3	11年7月(2)	男性(3)	0~6か月(1)	広島市(1) 福山市(1) 安芸郡(1)	髄膜炎(1)
		11年8月(1)		3歳(1)		咽頭炎(1)
				7歳(1)		手足口病(1)
コクサッキーウイルスB4型	2	11年8月(2)	男性(2)	2歳(1) 5歳(1)	庄原市(2)	ヘルパンギーナ(2)
アデノウイルス40/41型	1	11年8月(1)	男性(1)	2歳(1)	庄原市(1)	急性胃腸炎(1)

表中の()内の数字は検出されたウイルスの件数

【コメント】

1. 無菌性髄膜炎、手足口病、咽頭炎の患者から、コクサッキーA16型ウイルスが検出されている。
2. 6月以降、発疹性疾患患者が散見されている。それらの患者からは、エコー18型、コクサッキーA16型、コクサッキーA2型ウイルスが検出されている。

検査依頼受付状況(平成11年8月3日~10月4日)

検査依頼地区	疾患名(数)
廿日市地区	発熱(6)、発疹(4)、無菌性髄膜炎(4)、咽頭・扁桃炎(2)、手足口病(1)、膀胱炎(1)
海田地区	咽頭・扁桃炎(3)、インフルエンザ様疾患(1)、無菌性髄膜炎(1)
東広島地区	発疹症(3)
呉地区	無菌性髄膜炎(2)、発疹症(1)、その他の疾患(1)
三原・尾道地区	脳・脊髄炎(6)、咽頭・扁桃炎(4)、無菌性髄膜炎(2)、発疹(2)、発熱(2)、感染性胃腸炎(1)
庄原地区	手足口病(4)、ヘルパンギーナ(3)、咽頭・扁桃炎(3)、感染性胃腸炎(2)、無菌性髄膜炎(1)
可部・吉田地区	無菌性髄膜炎(9)、咽頭・扁桃炎(6)、咽頭結膜炎(3)、発熱(1)